# 男と女の文章

橋本 治

## 作者

**橋本治**

昭和二十三（一九四八）年～平成三十一（二〇一九）年。小説家・評論家・随筆家。東京都の生まれ。東京大学文学部国文科卒。昭和五十二年「桃尻娘」で講談社小説現代新人賞佳作を受賞。以後、ユニークな発想と独特の軽妙な文体で、エッセイ、小説、評論、古典現代語訳等、多彩な執筆活動を展開した。主な著書に「桃尻娘」（昭五十三）、「桃尻語訳枕草子」（昭六十二）、「宗教なんかこわくない！」（平七）、「「三島由紀夫」とはなにものだったのか」（平十四）、「蝶のゆくえ」（平十六）、「双調平家物語」（平十～十九）がある。

## 出典

本文は「これで古典がよくわかる」（ちくま文庫　筑摩書房　平十三）によった。教科書に収録するに際して、漢字・送りがな・句読点などについては教科書として統一した体裁に改めた。

## 学習活動のポイント

### ■導入

**学習活動のポイント**

❶ 作者について理解する。

❶教科書所収の作者紹介項目を用いて、小説家・評論家・随筆家など、多彩な執筆活動を行った作家であるとともに、日本の古典文学に関する造詣も深いことを解説する。

### ■展開

**学習活動のポイント**

❶ 本文の黙読をする。

❷ 平安時代の日記について、男性のものと女性のものの違いについて、文体と内容の面からまとめる。知技(1)ウエ 思判表 B(1)ア　→「学習のポイント」1

❸ 平安時代の男性の日記について、誰がどのような名前の日記を遺しているか、調べる。知技(2)エオ 主態　→「学習のポイント」2

❶読めない語句については、辞書などで調べるよう指示する。

❷本文に書かれていることを丹念に拾って、男女が対照的になるようにまとめさせる。

**【評価】** 我が国の言語文化の文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしているか、確認する。

・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解しているか、確認する。

・男女の日記の違いを、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えているか、ノートなどの提出物により、確認する。

❸藤原道長「御堂関白記」藤原実資「小右記」藤原行成「権記」などがある。資料集やインターネットなどを活用して調べさせる。図書館に翻刻や影印本があれば、手に取らせ、どのようなことが書かれているかを確かめさせる。

**【評価】** 時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解しているか、確認する。

・歴史的な文体の変化について理解を深めているか、確認する。

・進んで日記文学の特徴や成立の背景や、平安時代の日記について、男性のものと女性のものの違いを理解し、学習の見通し

をもって、平安時代の男性の日記について調べようとしている　か、分析する。

## ■ まとめ

**学習活動のポイント**

❶「門出」を読み返し、男性の日記と女性の日記のあり方の違いを考え、女性に仮託した意味を考える。［知技(1)ア・(2)ウ］［思判表B(1)エ］

❶女性に仮託するという虚構の方法について理解させる。

**【評価】**言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解しているか、確認する。
・古典の世界に親しんでいるか、確認する。
・「男と女の文章」を読むことで、「土佐日記」の文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているか、ノートなどの提出物により、確認する。

## 発問例

●八一ページ

問 **「そういう種類のもの」（上2行目・13行目）とあるが、それぞれどのようなものか。**

答 仕事上、公式の場で明らかになっていることが書かれたもの。
個人の経験を、その時の心情も含めておもしろく読んでもらえるように書いたもの。

補 前のものは男性の日記を指し、後のものは女性の日記を指す。両者の違いが分かるようにまとめるとともに、「日記の形をした小説」とあることに留意する。

## 語句の研究

●八一ページ

**上10紀貫之・土佐日記**　単元５「作者」「出典」参照。

**上10婉曲表現**　直接的にではなく、遠回しに表すこと。

●八二ページ

**上1政界秘話**　政治の世界で個人的に知ることになった一般的には知られていない話。

**上15右大将道綱母**　生年未詳～長徳元（九九五）年。藤原倫寧の娘。藤原倫寧は、いわゆる受領層の貴族であり、子には作者のほかに歌人藤原長能、菅原孝標の妻（「更級日記」の作者の母）らがいる。作者は天暦八（九五四）年に藤原兼家と結婚し、翌年道綱を産んだ。家集に「道綱母集」がある。

**上15蜻蛉日記**　日記。作者は藤原道綱母。天延二（九七四）年以降、まもなく成立。藤原兼家の妻であった作者が、兼家の求婚から筆を起こし、満たされぬ結婚生活に悩み、母との死別、子、道綱への愛、物詣でなど、天暦八（九五四）年から二十一年間の出来事を告白的に述べたもの。女流日記の先駆的作品である。

**上15和泉式部日記**　日記。作者は和泉式部。ただし主人公の女性を、作中では「女」と記すなど客観的な叙述がなされていることから、作者は別の人物であるという説もある。寛弘七（一〇一〇）年頃までに成立。敦道親王との愛のいきさつが歌物語風につづられた作品で、長保五（一〇〇三）年四月から翌年一月までの記事が収められている。

**上15紫式部日記**　日記。作者は紫式部。寛弘七（一〇一〇）年頃成立。寛弘五（一〇〇八）年八月から寛弘六（一〇〇九）年元旦までの宮仕えの日記を主とする。前半は、彰子の皇子出産に伴う華やかな行事の様子など、宮廷生活の記録と随想、後半は、人物批評や芸術上の諸問題を論じた文章で構成されている

**上16菅原孝標の女**　寛弘五（一〇〇八）年～没年未詳。父孝標は菅原道真の子孫であり、伯母には「蜻蛉日記」の作者藤原の道綱の母がいる。「浜松中納言物語」「夜の寝覚ざめ」などの作者とも言われている。

**上16更級日記**　日記。作者は菅原孝標女。康平三（一〇六〇）年頃成立。作者が十三歳の頃、父の任国、上総の国を出発して京に上ってから、五十三歳に至る頃までの体験を回想して書いたもの。少女時代の浪漫的な夢や

物語への憧れが、現実の世界に破れ、信仰の世界を求めていくようになる心情が記されている。

**上18清少納言**　生没年未詳。歌人や学者を多く輩出した清原氏の出身で、父元輔は「後撰和歌集」の撰者の一人。正暦四（九九三）年頃、関白藤原道隆の娘で一条天皇の中宮（後に皇后）定子のもとに出仕し、長保二（一〇〇〇）年に定子が亡くなるまで仕えた。家集に「清少納言集」がある。

**上19枕草子**　随筆。作者は清少納言。長徳二（九九六）年～長保三（一〇〇一）年頃成立。三百余段から成り、内容は、「もの尽くし」と言われる類聚的章段、自然や生活に関する随想的章段、宮仕えでのさまざまな見聞を記した日記的章段の三つに大別され、洗練された美意識や鋭い観察眼、豊かな知性が看取される。